

水稲 斑点米カメムシ類について

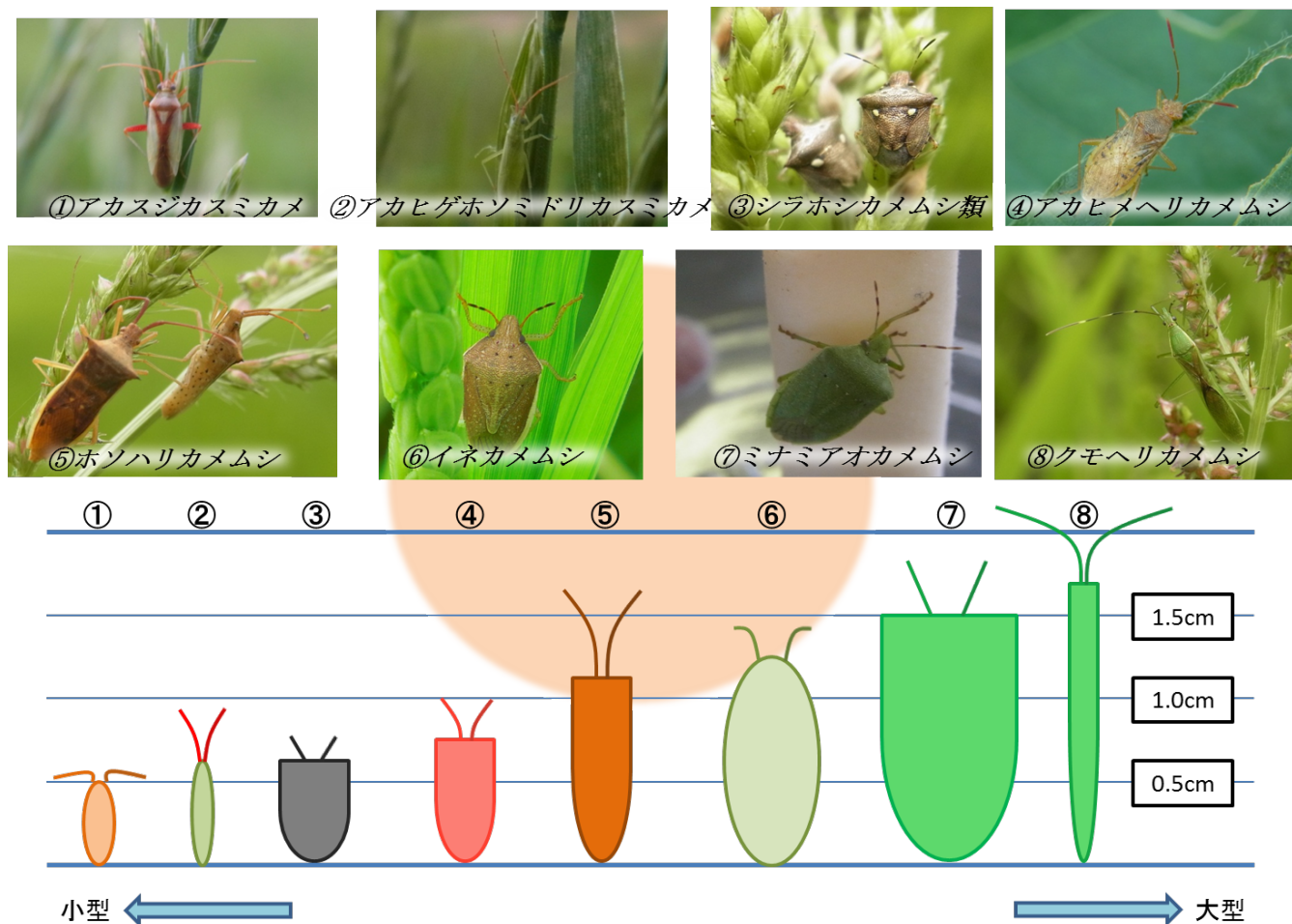


図1 斑点米カメムシ類の種類と大きさ

1 生態

本県での斑点米カメムシ類の優占種は地域によって異なる。平坦地域ではホソハリカメムシやシラホシカメムシ類、アカスジカスミカメが主要な種であり、中山間地域ではアカスジカスミカメ、ホソハリカメムシ、アカヒメヘリカメムシ、山間地ではアカヒゲホソミドリカスミカメ、アカヒメヘリカメムシ、シラホシカメムシ類、ホソハリカメムシが優占する。

これら斑点米カメムシ類は、水稲の出穂前は畦畔や周辺の雑草地などで生活し、出穂後に水田に侵入する。斑点米カメムシ類が稲穂を吸汁することで粳が不稔になったり、玄米に食害痕が残ったり、斑点米が形成されたりする。

斑点米カメムシ類は、その種類や大きさにより斑点米の産出能力が異なる。一般に大型のカメムシほど1頭あたりの斑点米の産出能力が高い傾向にある。

2 発生状況

【カスミカメ類】

イネ科植物の葉鞘内で卵越冬し、春先から成虫が出現する。6月中旬にイネ科植物で繁殖した個体が、4月中下旬植えの早期あきたこまちの出穂に合わせ集中的に加害するため大きな被害をもたらす。

口針が弱く、籾を刺し通す力がないため、開花期～登熟初期の加害が中心となるが、割れ籾がある場合は登熟中期以降にも加害する。斑点は玄米の頂部、または内・外穎の縫合部に沿った玄米の側面ができる。

アカヒゲホソミドリカスミカメは高温に弱いため、夏期は発生量が減少する。

【ホソハリカメムシ】

イネ科雑草や針葉樹の樹冠部で成虫越冬し、春先から雑草地に移動して繁殖する。イネの出穂に合わせて水田に飛来し、出穂後の登熟初期～登熟後期まで加害する。

籾のどこからでも口針を刺して吸汁するため、玄米のどこにでも斑点ができる。被害部の色は褐色で、円形～雲形、中央には口針の刺し跡が見られる。

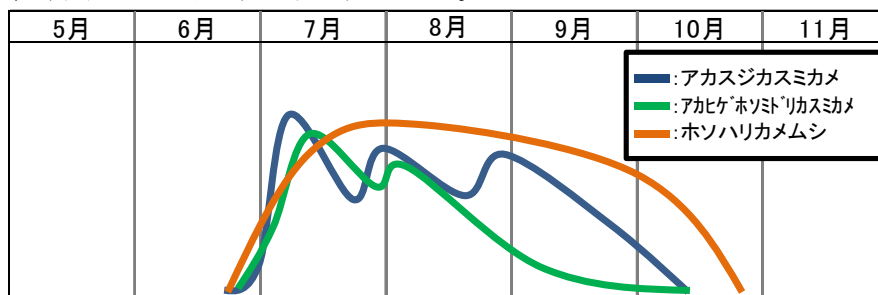


図2 本田すくい取り調査における発生活消長



図3 斑点米の種類

- ①：カスミカメ類早期加害による頂部被害、②カスミカメ類早期加害によるくさび型被害、
- ③カスミカメ類後期加害による斑点米、④大型カメムシによる斑点米)

3 防除対策

(1) 除草

地域の斑点米カメムシ類の生息密度を低減させるため、畦畔、農道ぎわ、水路ぎわ、休耕田、および水田周辺などの除草を地域全体で一斉に行う。特にイネ科雑草は好適な餌植物となるため出穂させないように管理する。水稻の出穂直前および出穂後の除草は、斑点米カメムシ類を水田内に追い込み、被害を助長する恐れがあるので出穂10日前までに実施する。

水田内のヒエ類等は好適な餌植物となるため、水稻が出穂する前に除去する。

(2) 薬剤による防除

散布剤による防除は穂揃期およびその7～10日後の2回実施する。粒剤による防除は出穂期の7～10日後が基本となるが、カスミカメ類が優占する地域では、出穂期～穂揃期に施用する。ただし、使用する薬剤により防除時期が異なるので注意する。